

第3回 令和2年度使用教科用図書加古川採択地区選定委員会 議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議

(1) 第2回加古川採択地区選定委員会協議に関する報告書の確認について

(第2回選定委員会での協議内容をまとめた選定報告書の内容確認について事務局から説明)

会 長：先ほどの説明に関しまして、何かございませんか。

(承認)

(2) 令和2年度使用小学校教科用図書の選定について

会 長：第2回と同様に、選定委員会としては、それぞれの立場からの意見をしっかりと伝えることが大切であると思いますので、協議の中で、積極的に発言いただくとともに、「この教科書がふさわしい」という意思表示、発言もよろしく願いいたします。調査員会からの報告の順に協議をお願いします。

①国語科教科用図書の選定について

会 長：まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委 員：キャラクターが車イスであったり、外国人が出てきたりするなど、多様性に着目してあると思いました。また、手塚治虫や三田の有馬富士など、兵庫県にゆかりのある部分があったと思いました。

会 長：他にいかがですか。

委 員：学習の最初に、めあてを確認できるページがあり、そして、その課題にそって読み深められる、使う毎にふりかえりの構成がきちんとされていて、子ども達はその教科書を使いながら、学習を深めていけるように見受けられました。くっきり、はっきりした挿絵とかもあり、光村の教科書に比べると、紙質も白い、くっきり、はっきり見えるような教科書になっているなという印象がありました。

会 長：他にありますか。

委 員：東書なんですけど、読むという単元については、非常に学びをしっかりとさせるように単元の入り口に「学びの窓」というのがつけてあり、ここではどのようなことばの力をつけるのか、あるいはどういうめあてで学習を進めていくのかがはっきり明示されてあって、子ども達、あるいは教師に、読

むという単元を意識させていると思います。それから、定期的に前年度、例えば6年生で言えば5年生で習った漢字を振り返るところを、所々、子ども達が忘れた頃にもう一度フィードバックさせるというような配慮があったように思います。あと、他の教科書会社にもあったんですが、ノートを書く例を取りあげて、子ども達が自ら学ぶ工夫がありました。今までなかったような傾向と思いました。

会 長：他にいかがですか。

委 員：私は、2年の「すきなことを伝え合う活動」や「うれしくなることばをあつめよう」など、自己肯定感を高めるような教材が多かったと感じました。また、3年「人をつつむ形」、4年「数え方を生みだそう」のような説明文の教材は、今までになかった視点で書かれていて、斬新だなというイメージがありました。それから6年「防火ポスターを作ろう」は、図やグラフをきっちりと使って、町の幸福論につなげ、プレゼンテーションをして、コミュニティデザインをして、集めた情報を活用し、提案することを考え、またプレゼンテーションにつなげていくということで、次々と新しく子ども達が活動できるようになっていったと思います。それと最後に、説得力のある意見を書こうということで、フェアトレード、貿易の資料が豊富に使われていたという印象がありました。読解力を付けるためには、私自身は説明文が多い方が、深く言葉の意味を追究できるし、有効かなと考えますので、そう意味では、この東京書籍の教科書は、そのような部分もしっかりと考えられていると思いました。

会 長：他にいかがですか。

会 長：続いて、学校図書についていかがでしょうか。

委 員：巻頭に、それぞれの学年にあった詩があり、もちろん私たちが今まで触れ合ってきたものも多く、大変親しみを感じるとともに、大変素晴らしいなと思いました。1年生の挿絵、絵ですね、大変親しみがもてて、入学早々の子ども達が大変楽しみを持って学習できると考えられます。

委 員：教材によって、学び方が違うということが東書、光村の教科書のつくりとは少し違って、子ども達に一貫した学び方を教えていくという部分については、やりにくいのかなと思います。しかし、AIや東京スカイツリーなどの現代的な話題を積極的に取りあげた教材があるというのは、とてもよいところだと思いました。

委 員：全体的に教科書を見させていただいて、古典が割と豊かにあるなと私は感じました。特に、狂言というのは、意外と子ども達が、古典の中でもおもしろい部分だろうなと思うんですね。それも含まれておりました。しかし、3年のローマ字のところですが、教科書に直接記入する場所が、ちょっと

小さいかなと、もう少し大きく書けるようにしてあげたらいいのにも思いました。4年に点字の見本がちゃんと付いていましたね。そういうのも、ちょっとした配慮かなと思いました。教材を見てますと、学習の見通しをしっかりと示してある単元もあるのですが、あまり見通しを丁寧に示していない単元もあるなど、温度差が若干感じられました。

会 長：他にいかがでしょうか。

委 員：報告の中では、物語文には道徳的な内容を含んだ作品がやや多いとありましたが、私は、むしろこれもよいことかなと思って読んだんです。例えば、5年の重松清の「バスに乗って」は、読ませたいお話の1つに入れてもよいのかなと思いました。とても感動的なお話でした。ただ、国語として、子ども達にどう学ばせていくかというのは、大変難しいところですけど、読み物として最後に教えるのならば、それは子ども達が読み進める上ではいいお話だったと思います。それと、4年の「ポレポレ」も好感が持てるなという感じで読みました。

委 員：1年初めの教材のイラストがパステル調で美しいが、小さくてやや細かいとか、いろいろ感じました。

会 長：他に学校図書については、ございませんか。

会 長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。

委 員：学習の手引きが、それぞれの教材の後ろに付いているんですが、その内容が少し数多くて、細かく書いてある。ヒントが多いことはよいことですが、子ども達が思考を広げるというところについては、少し精選されていてもよいのかなと思いました。

委 員：学習の手引きに関連して、最上段、中段、下段と3つに分けてあり、上段には確かめよう、考えよう、深めよう、広げようという大きくくりの中で分けられて、中段にはそれに対しての視点、考えるべき課題というもの、下段には教材ではどのように書いているのかという、非常に大きく3段構成で示され、そこまで子ども達に要求する必要があるのかなと思いました。

会 長：他にいかがでしょうか。

委 員：教育出版も意欲的に今までなかったものを取りあげていると思います。例えばですね、6年で「随筆を書こう」など、今までなかったように思います。『うれしさ』って何？～哲学対話をしようも新しい試みだったと思います。それを子どもにどう定着させるかが難しいのかなと思いました。4年の点字では、直接触れられるようになっていました。

委 員：国語の場合は、5、6年それぞれ1冊だと思うんですが、ここは分冊ですね。私は個人的には分冊がよいと思います。前に勉強したところを振り返りにくいとか、教材の前後が難しいとかがあるかもしれませんが、そう思

いました。

会 長：他によろしいでしょうか。

会 長：最後に、光村図書についていかがでしょうか。

委 員：それぞれの学習の単元の前に扉が付いていて、そこで目標をつかみ、その先に読み進めたいくなるようなリード文が付いている。これはとても教師としては、導入のところで使いやすいと思います。それと、高学年の教科書は厚くなっているんですが、定番の教材に読解文、物語文が入っているというような感じで、光村の教科書も使ってみたいなと感じます。

委 員：私は、報告書様式2のところで、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成をバランス良く図る工夫がされているかというところで、光村だけが二重丸になっているんですが、教材の一覧表でいろいろ調べてみたんですが、光村はやっぱり物語文が多いんです。どこかの学年で、説明文が極端に少ないところがありました。3、4年でしたかね。その分を物語文に持ってきているんです。1つの教材を深めて学習するという点で考えると、物語文が多すぎるといことはどうなんだろうと思います。授業の中で、情緒を深めるという点ではよいかもしれないですけど、今問題になっているのは、児童の読解力をどう付けるかということですから、説明文を徹底的にやるか、あるいは、物語文にしても徹底的にするかだと思います。徹底的にやらないと読解力は付かないのではと言われている時代ですから、物語文が多すぎたら、子どもが深める機会をなくしてしまうのではないかと気になります。先生も深めるはずが、やりにくいのではという気がします。だから、その二重丸が付いているのは私はどうも納得がいきなかったのですが、物語文が多いのもどうかなと思います。そういうのが好きな先生は、使ってみたいだろうと思いますけど。子どもの読解力を付けるという意味ではどうかなと思いました。

委 員：光村については、伝統的に物語を配置しているところがありますね。学年ごとに教科書に名前を付けるなど、伝統的なものを感じます。

会 長：他にご意見ございませんか。

委 員：6年では、光村も説明文に力を入れたり、今までは宮沢賢治の「やまなし」でも、読解というか理解するだけだったんですけど、今回は、私が読んだ限りでは、自分の考えを書くところまで踏み込んで指導することになっていました。それと、5年、6年と2年がかりで学習を進めるというのも、おもしろい試みだなと思いました。

会 長：他にございませんか。

全体を通してご意見ございませんか。

委 員：東書か光村かどちらかかなと私は。

今の子は本を読む子はすごく読むんですけど、読まない子の方が増えているなという印象があるんですね。国語の授業でしか本を読まないという子ども達がいる中で、光村さんに関しては、さっきおっしゃったように、文章、物語が多いですけど、よいことではあるのかなと、私は思ったんですね。授業でしか読まない子が、授業で読んでみて、本っておもしろいなというきっかけになるなと思ったのが光村さんかなと思いました。

委員：読む機会を与えるっていうのと、読解力を付けるっていうのと、兼ね合いが難しいところだとは思いますが。やはり、小学校の場合は、学ぶことの基礎ですので、学ぶということから考えると、読解力を付けることは外せないかなと思いますけど。

会長：皆さん方、いかがですか。

委員：私も物語文よりも説明文を校内研究の柱にして取り組んできた経緯があります。筆者の思いがこうだ、だけでも、このここを入れ替えたならその思いはどう変わってくるのだろうなど、批評的に読むということを試みたことがあります。最近、説明文に力を入れている学校が多いかなという印象を持っています。

委員：子ども達に読む楽しさっていうのは、しっかりとつかませてあげたいという思いはありますね。最近の子どもは、たくさんの量を読みきる力がないというか、問題を見ただけで、やめたということになるので、たくさんのものを読める力を付けるには、好きである事は大事ですね。また、読む中でなるほどと消化できる読解力、そういう2つが必要になってくるのかなというふうに思います。どちらも大事ですね。

委員：そうですね。物語文、何が書いてあるのかわからなければ、なかなか感動もこないのかなと思いますけどね。

委員：「山に行く牛」ってありましたね。あれは30年、40年前からありましたね。びっくりしました。

委員：「ごんぎつね」もありますね。

委員：「ごんぎつね」は、本当に時間をかけて、十何時間という時間をかけて詳しくやるんです。本当に言葉の隅々までやるんですけども、そうすると他の教材がなかなか追いつかなくなることがあるんでね。あんまり多すぎると、深めるという点ではなかなか難しいかなと思います。

会長：推薦に関してどうですか。

委員：本は1年生の時に読んだ感想と高校生で読んだ感想では、全く違うじゃないですか。本当に奥が深くて、たくさん読めば読むほど読解力が付いてくるものだと思います。読んだ数と読解力は正比例していると思っています。今の子にもたくさん本を読んで欲しくて、読めばきっと国語力も付

いてくる、理想かもしれませんが、そう思っています。

委員：今、協同的探究学習で授業を行っているのですが、よい学びを子ども達に付けさせたいと思いながら、国語で研究を進めているところもあると思うんですけども、その中で、教材がわりとこれまでの定番がきっちりと入っていて、そして、説明文の単元でも学び方の練習をする教材があって、きっちりとつくられているというところで光村は評価できるんじゃないかなと思って、私は光村を使ってみてもいいんじゃないかなと思っています。

会長：他にご意見ございませんか。

推薦の意思は他にないですか。

会長：では書写にいかせていただきます。

②書写教科用図書の選定について

会長：まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委員：東書は4年生で新聞づくりを取り扱っていたり、5年ではリーフレットの作り方、6年ではポスターの書き方が取り入れられていました。特に、私が気になったのは、3年生から始まる毛筆です。そこが大きなターニングポイントであるので、どんな風に入れておられるのかと思うと、東書は最初横一文字ですね。だいたい横線を練習するのが普通3年の第一段階だと思います。その次は「下」という漢字で、その次は「日」という漢字でした。非常に段階を追って書かれているとは思いましたが、3つ目にでてくる「日」の二画目の曲がりというのが非常に難しいんです。3年が始まって3つ目の教材で「日」が上手く書けるかなというのが心配でした。しかし、まず最初に横一線、できたら縦線、そして横線と縦線ができたなら「日」へもっていくという考え方は筋が通っていると思いました。

委員：横に広いAB版なので大きいと思いました。机の大きさに関係するのですが、本を左側において、右に自分の書く分を右利きの場合はやるんですけど、できれば同じ大きさがよいなと思ったんです。

委員：3cm横に広がるんで、意外と低学年の子どもにとったら大きく広がると思いますよ。

委員：お手本の横に、書くポイントみたいな部分が帯で付いている、そこがちょっと広がっているのかなと思いました。今の子ども達の机から言うと3年の子が置くと場所をとるのかなと思います。他の教科書に比べてちょっと大きいから見やすいといっても、お習字の道具広げたら狭いなという感じにはなります。

会長：他にご意見ないでしょうか。

では、次にいかしていただいてよろしでしょうか。

- 会 長：続いて、学校図書についていかがでしょうか。
- 委 員：学校図書も毛筆では、最初は、漢字で数字の「二」なんです。横二つですよ。次が「木」なんです。これが左はらいと右はらいが非常に難しいんです。第2段階でここまで入れてくるかと思ってみました。次が、第3段階「月」なんです。これも難しいだろうと思いながら見せてもらいました。1年には、後ろにシールがついていて、できたよというところにはシールを貼りましようとなっていました。子ども達にとっては非常にやる気が出るだろうなと思いつつも、担任としては、シールを貼らすという作業が、大変だろうなという思いがしました。
- 委 員：私はこれは実物大なので気に入っております。
- 委 員：調査委員の報告では、朱書きの価値はやや少なく教科書を見ただけでは運筆がややわかりにくいとありますが、皆さんはいかがでしたか。
- 会 長：では、特に意見がないようですね。
- 会 長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。
- 委 員：下から二つ目のガイドに書いてあるように情報が多くて大変扱いにくいなと、書写の時間にこれだけ知識的なところに時間を割けるのかなと思いました。
- 委 員：硬筆は書く場所が少ないので、これは別にノートとかを用意する必要があると思いました。ノートを別に用意すると、それに練習する時間も確保しなくてはいけないので、現実的に困るだろうなという思いがしました。ただ、毛筆はですね、穂先がどういう風に動くかと示してあったので、子ども達には説明がしやすいなと思いました。確かに情報量が多いですね。
- 委 員：この濃淡のついた朱書きの手本というのは大変見やすいし、子ども達もわかりやすいと思います。
- 会 長：他にご意見ないでしょうか。よろしいですか。
- 会 長：続いて、光村図書についていかがでしょうか。
- 委 員：光村は字に対しての解説が詳しく書いてありましたね。
- 委 員：発展的な内容で、2年で毛筆、6年で行書というのはどうなんですかね。なかなかそこまではいきにくいですし。
- 会 長：そうですね。他にいかがですか。
- 特にないようなので、では、次にいきます。
- 会 長：最後に、日本文教についていかがでしょうか。
- 委 員：ここは、水書シートが大変しっかりしていて、台紙のように、これは書きやすいと思いました。
- 委 員：私がびっくりしたのは、エアメールの宛名書きの練習が後ろにあったことです。ここに相手先の名前を書くんだとか、これは外国語科との関連も

あるのかと思って、これは子ども達にとってはよい学びになるのではないかと思いました。

会 長：日本文教について他にありませんか。

どこが使いやすいとお感じになられたでしょうか。

委 員：難しいな。

会 長：難しいですか。みんないいところもあるという所で留めておきましょうか。

では、次にかせていただきます。算数です。

③算数教科用図書の選定について

会 長：まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委 員：1年が大きい教科書がついていたんですね。

委 員：きっと1年の最初は使いやすいだろうというのはありました。

委 員：私も最初見た時も、自分が1年の担任だったらうれしいと思いました。子ども達にノートに何マス空けてここから書くと言わなくても、絵と数が示してあって、その下に数字を書いたりする。非常につながりがあって最初は使いやすいなと思いましたね。

委 員：指導しやすそうでしたね。双葉と四つ葉で示されている課題とまとめみたいのがはっきりわかるかなという感じがしました。

委 員：単元が終わったところで、つないでいこう算数の目というのが1ページでまとめてあるんですね。いわゆる大切な見方・考え方。これが先生にとって、この単元で何を子ども達に学ばせるのか、まずそこを見て、簡単に理解できるし、先生方の業務改善という意味では非常に大変な中で、これがポイントかと分かるなと思いました。これは子どもにとっても学び終わった後、こういうことを私たちは学んだんだなと確認できると思って、そこは高く評価したいんです。でも、全体的に見ると非常にたくさんの情報量があり、結局子ども達が見逃してしまったり、見なくなってしまうりする恐れがあるなというのはちょっと懸念しました。

委 員：たくさんありますね。

委 員：はい。

会 長：他にどうでしょう。

委 員：私は文章問題が多いなという印象があったんです。子どもも苦手ですけど、やらしておかないといけないものですから 文章問題が多く、よいなと思いました。

委 員：活用とかそういう意味では、すごく力が付く可能性がありますよね。

会 長：他にいかがでしょうか。

会 長：続いて、大日本図書についていかがでしょうか。

委員：これは1年から6年まで各1冊になってますね。かなり厚いように感じました。

委員：1年の教科書が東書と全く違う、上下に分かれていないし、最初にその厚い算数の本を見てしまうと難しいなというのはあります。苦手な子に関しては、やっぱり厚かったら負担感が大きいかなと思います。

委員：初めから重いランドセルを背負うのはかわいそうに思いましたが、プラスワン、プログラミングに挑戦はおもしろかったですね。

委員：一番最初から重い物をたくさん持つというのは、お子さんの負担になりますね。

会長：続いて、学校図書についていかがでしょうか。

委員：横に長い教科書なので、一文が長いので使いにくいのかなと思いました。一行が長い。

委員：文章問題をご覧になって違和感なかったですか。1年生の上の例えば41ページ、「子ども3人、大人3人、全部で何人になりますか」となっているんですが、問題の語尾が全部「なりますか？」なんですよ。「何人ですか？」や「何匹ですか？」ではなく、「何匹になりますか？」「何人になりますか？」となっているんですよ。そうすると先生が発問する時に、同じように発問するでしょ。でも1年生の子にそういう発問、実際にはしませんよね。「何人いますか？」とはっきりと言いますよね。ですので、違和感があつたんです。何かそれは違うかなという感じがしました。「何人になりますか？」ではなく「何人いますか？」とはっきり言うのが本当だと思います。発問もそのようにするのが本当だと思います。それから割合は2つに分かれて、違う単元のところで出てくるんですけど、他の教科書は1つにして出てきたんですけど、1つの方がわかり易いのかなという気がしました。

会長：とにかく率直に思ったのは、内容が大変多いなと思いました。机の上に置くとノートを置いて子ども達が作業しやすいのかなと、横に広いですから、それは思いました。

委員：他にいかがでしょうか。

会長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。

委員：5年生の割合は、「比べる量÷もとにする量」と他の教科書会社では出てくるのですが、教育出版のみが割合は「比較する量÷基準量」と出てきていました。それでもよいのですが、割合は「比べる量÷もとにする量」でずっときているので、突然そう言うのが出てきたら子どもがこんがらがってしまうかなと、ただでさえ、割合でつまづく子が多いのになと思いました。

会長：言葉の理解難しいですね。

委員：基準量ですからね。基準量、難しいなと。

どれを1にするかでしたね。

会 長：こういう課題でこの時間勉強しましょう、こういうめあてとか学習課題、そしてまとめはこうです、ということがわかりやすい方がいいですね。この教科書は、それがわかりにくかったなと思いました。ここからここまで、1時間で学ぶというのがちょっとわかりにくい。

委 員：教育出版についていかがでしょうか。

会 長：ないようでしたら、次に啓林館についてお願いいたします。

委 員：問題の最初が子ども達に入りやすい、日常のこと、そういうことをまず単元名の後に書いてあって、写真が載っていたり、絵が描いてあったりするの、やっぱり使いやすいなと思います。

委 員：しっかりと構成もされてるし、ここのよいところは、QRコードが非常に多いですね。全部を見てないですけども、そういう面では、それを活用したらたくさん問題に触れられるのかなという思いがしました。

委 員：啓林館は情報量が適切でした。はっきり課題とまとめがわかる構成になっていました。

委 員：内容が精選されているような印象をもちました。

委 員：教科書を評価する観点のどれも充足してたのかなあとと思いました。

会 長：他に啓林館についてございませんか。

委 員：私は普段から子どもの教科書を見たりとか全くしていなくて、このお仕事をいただいて初めて教科書を読ませていただいたんです。けれど、全然見慣れていないですけど、啓林館が一番見やすかったです。

会 長：他によろしいですか。

会 長：では、日本文教についていかがでしょうか。

委 員：特に、私も違和感はなかったんですけども、ただ6年の教科書を見ている時に、残念ながら6年になると算数が好きな子、嫌いな子と二極化が非常に激しくなると。その中で、数学に関する偉人のエピソードとかが最後にマンガになっているんです。かなりの量があるんですよ。多分、嫌いな子どもにとっては、ここはすごく最高によい時間になるのかなと思って。あえてそういう情報についてはカットしてやった方がその子のためになるのではないかなと思いながら、すごく多いなと感じてました。私が教師だったらそこは見させたくないなと。家へ帰ってから、また休み時間とかに見させたいなと思うんですけど。別冊になってないですね。

委 員：思わず見てしまうということですね。

委 員：見るでしょうね。子どもの心理としては、興味・関心が増すように作られていると思います。反対の効果が出る可能性が高いと思いましたね。

会 長：日本文教について他にございませんか。

算数に関して他にご意見はございませんか。啓林館について皆さんの評価が高かったということによろしいでしょうか。

会 長：他に推薦の意思はございませんか。

続きまして、図画工作です。

④図画工作科教科用図書の選定について

会 長：まず、開隆堂についていかがでしょうか。

委 員：一番初めに気になったのは、表紙でした。「図画工作」の文字が小さく、反対にサブタイトルの「わくわくするね」と書いてあり、これは生活科の教科書かなと勘違いしました。中身を見てみましたら、作品中心の構成がよいと思うのですが、人物がクローズアップされているなど、楽しそうな表情とか動作がたくさんあるのですが、作品よりも人物に目がいってしまうような気がします。

委 員：私もそう思いました。活動している写真がすごくダイナミックに写っているので、そここのところから学びに入るんだろうと思うんですけども、本当にそれでよいのかなという思いがしました。ただ、準備物がその単元の題材の上段に「こういうものが必要ですよ」と明示してありました。これが絵と言葉で示してあるので、今度こういうことをするので、こういう物が必要なんだなということは、子どもへの教えになるかなと理解しました。ページの下に「ふりかえり」とあって、子どもが取り組んだ後に、自分自身を振り返るということも配慮してあるなと思いました。

委 員：二種類の教科書が図工では出されているんですけども、日文に比べて割と出されている例というのが、子ども達が作ってみよう、自分にもできそうなものが展示してあったように思いました。逆に日文は、これすごいなという、それは1人ではなく、お友だちと作品を広げて、大きな題材に取り組んでいるということもあったのかもしれませんが、日文の方の例の作品が、広がりを感じるというような印象を持ちました。

委 員：他にいかがでしょうか。

委 員：開隆堂さんの概略の所に、紙を丸める活動が、短時間で1人でできる工作と紹介されているんですけども、それをしたことによって意欲を高められるのかなと、紙を丸めて何かを作ろうと思いますか？私は思わないなと思って。もう少し発展的なことをした方が、今の子ども達の興味がわくのではと思って。丸めただけで、そこから何を作ろうという意識が入るのか、それはちょっと疑問でした。

委 員：他にいかがですか。

会 長：では、日本文教についていかがでしょうか。

委員：楽しい教科書という印象です。楽しい作品が中心で、もちろん人物も写っていますけど、やたら大きくならないで、作品本意の構図でした。まず、工夫すること、2つ目には感ずること、考えること、3つ目に楽しむことという3つの視点から、それぞれの単元の作品作りが示されていたように思います。わかりやすいです。

委員：調査員からの報告にもあったんですけど、非常に協力して、共同して作る作品が所々にあって、ハッとさせられましたね。こんなふうなことができるんだということが、よくありました。どちらかというと、個人的な作品も大事だけど、皆で何かを作る楽しさ、皆で作るチームワーク、そういうものがいろいろな所に見えました。それから、「気をつけよう」、「片付け」のコーナーも入れておられました。そういう視点もすごく大事ななと思いました。

委員：ただ作品を作るだけじゃなくて、この作品を作ることによって、こういう態度を身に付けようということを、双葉マーク、考えてみようというもので、ちゃんと方向性を示されていることがすごいなと思いました。この作品を作ることによって、こういう態度を育んでいくんだよということを子ども達に示しておられましたね。そういうところ、おもしろいなと思いました。

委員：いかがでしょう。

委員：6年を持つと、電ノコを使うのに、ものすごく気を遣うんです。進度がそれぞれ違うんで一人ひとりに説明しないといけないんです。そういう時に、使い方についての配慮が詳しく書かれていたので、すごくよかったかなと思います。

会長：他に図画工作科に関して、ご意見はないですか。日本文教の方が評価が高いという感じでよろしいでしょうか。
では、次は家庭科です。

⑤家庭科教科用図書の選定について

会長：まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委員：単元構成が5、6年でそろって、2年間の学びを見通せるというところ、とてもわかりやすいと思います。内容を縦に並べて書いてあるという所です。

委員：家庭科では、5年とか6年の教科書でなくて、5、6年合わせてという形になっています。東京書籍は5年生で扱うのは8個の単元、6年生では7個になっていて、ちょうどバランス的にはよいなと思いました。調理をする写真が非常にわかりやすかったです。紙面の質かもわからないんですけど

ども、非常に見やすく、子ども達にわかりやすくなっていると思いました。ミシンの単元については、子ども達のために補足した方がよいのではないかなと思いながら巻末にいくと、きちっと資料が付けられていて、補足されていたので、ここでフォローされているんだなということを理解しました。プロに聞くコーナーというのがありましたね。すごくおもしろいと思って読ませていただきました。

委員：この失敗例の写真があるというのは、これは子どもに玉結びや玉どめを教える時に有効だなと思います。

委員：私もこの東書は大変見やすいと思いました。ワークシートが効果的に配置されて、定着を図るには有効かなと思いました。防災関連の内容も充実していたように思います。

委員：教科書を開けた、そのページに関係する、いわゆる家庭科の道具とか、そういうものの単語をそのページの下に書いてありました。そこをめくると答が載っていて、そのページ、そのページで英単語を入れているというのは、これも外国語活動や外国語科を意識しているんだなと思いました。

委員：「あなたは家庭や地域の宝物」という単元があったんですけど、とてもよいですね。私はそう思いました。自己肯定感が育つと思います。

委員：それから、どの単元にも男女の写真が、きちっと使用してあったように思います。家庭の仕事は、女性の仕事だけではないよと、言葉で言うんじゃないよと、写真で示してあるっていうのは、ものすごくよいと思います。

委員：それから品質マークとか環境マークも詳しかったように思います。

委員：他にございませんか。

会長：次に、開隆堂についていかがでしょうか。

委員：食物アレルギーについて、取りあげているというのは、今の現実としては、助かるというか、これから勉強していくというところでよいなと思いました。

委員：先ほどの東京書籍に比べると、大変、情報量が多かったかなと思うんです。実技が家庭科は多いので、そこに行くまでに、教科書を読むのにかかってしまうのではと思いました。幅広のB5版と書いてあるんですけど、逆に扱いにくいかなと思ってしまいました。

委員：調査員が教室保管が多いとおっしゃってたんですが、教室保管とはどんな感じですか？

委員：私の学校では、週に1回とかの授業のものは、とりあえず置いておこうなっています。ほぼ毎日使う物は、持って帰って復習もしないといけないということで、家庭科は学校保管になっていると思います。1週間に1回とかの授業は、意外と教科書とかが必要になってくるので、その時に忘れ

られると子どもも困るし、先生も困るという意図もあると思いますね。

委員：開隆堂さんは、裁縫に関しては割と丁寧に扱っておられると思ったんです。ただ調理については、やはり東京書籍の方がすごく丁寧かな、全体的に東書の方が、優れているように感じました。

委員：写真のモデルが、開隆堂の方は女の子の方が多かったです。ミシンは女の子がほとんどだった印象があって、ミシンは男の子もするもので、女の子がするもんだと思ってもらったら困るなと思いました。ただ、障害者に対する合理的配慮が図でちゃんと示してあったので、よかったなと思いました。

委員：家庭科に関して、全般的に何かございませんか。

会長：推薦の意思是、他にございませんか。東京書籍の方が見やすいのかなという感じですね。

会長：次に道德です。

⑥特別の教科 道德教科用図書の選定について

会長：では、東京書籍についてお願いします。

委員：道德の教科書も、割と学校保管することが多い教科書で、もちろん重さも関係すると思うんですけど、国語や算数のように常時持ち帰るっていうような形は少ないかと思います。それでも、夏休みや人権参観日前に、持ち帰ることはあるんですけど。国語や算数とかとはちょっと違って。重さの報告もありましたけれども、国語や算数ほどは、関係ないかなと思いました。

委員：親子で教材を一緒に読んでくださいという日を設定して、持って帰らすということはあると思うんですね。今、いじめ問題を中心に、道德的価値を高めるような授業研究というのを各学校でやっていると思うので、やはり、家庭や地域を巻き込んでというのがあるので、持って帰らせることも前よりは増えていると思います。

委員：東書の場合は、基本的には色分けしてあったんですけど、いじめに関する題材が少なかったかなと思います。

委員：福祉に関する内容はここですと、ある意味強調されていましたが。

委員：低学年の教科書は、割と読み物があるんだけど。4コマ漫画みたいに、提示の仕方がいろいろ工夫されているなと思いました。

委員：割と配慮されているなと思ったのが、どの教科書もそうなんですが、自己肯定感を育てる教材とか、多様性を子ども達に知らしめる教材がどの教科書にもあってよかったかなと思います。東書の道德の場合は、「気付く」「考える」「話し合う」「振り返る」「見つめる」「いかす」という、読み取る道

筋というか子どもの考える道筋がきちんと書かれていたので、よかったと思います。どの教科書にも、子ども達に読ませたい話があって、東書の場合は「白旗の少女」というのは、読ませたい教材と思いました。「足尾銅山鉍毒事件」とかも取りあげていましたね。人権問題が少ないとご質問されていましたが、読み方によって人権問題として扱える教材はたくさんある訳で、きちんと教える側の先生が意識を持ってやる必要があるなと思いました。

委員：定番教材を扱っていないとおっしゃってたんですね。

委員：そうですね。

委員：他の教材はどうかですね。

委員：何を教えるかですからね。別にかまわないと思いますけどね。

会長：続いて、学校図書についていかがでしょうか。

委員：道徳が教科になっている、そもそもの理由と言いますか、やっぱり「いじめ」ですね。いじめ問題で、小学生・中学生・高校生が命を自ら絶っている事件が多い。命を大事にしようということで、いじめをなくそうということで、道徳に力を入れようと、今教科になったと思うんです。それがメインだと私は思っているんです。もちろん、差別とか多様性ということも大事だと思うんですけど、子ども達に一番教えて欲しいことは、「いじめは絶対したらダメ。いじめをすることによって、もしかしたら人の命を奪うかもしれない」ということに気付かせて欲しい。それが道徳で教えて欲しいことだと思っているのです。なので、光村さんだけが、すごく扱っているんです、いじめに関して。ですので、私は光村がよいと思います。いろんな考え方があると思うんですが、やっぱり子ども達に一番教えて欲しいのは、いじめはしたらダメということ、それが、一番前提だと思っています。親としても、一個人としてもそうです、命は大事。つまり、いじめは絶対にしたらダメと教えてる教科書を選んでほしいなと思っているんです。

会長：他の委員の皆さんいかがですか。

委員：それで言いますと、学校図書は、高学年になると割と多いんだけど、学年によってばらつきがある。4年生だったら4つだったりするので、全部の学年に充実しているとは言えないという報告は、それにあたるのかなと思いました。ただ、別冊ノートが付いている教科書が何冊かあるんですけど、今のあかつきも別冊になっていまして、これは、割と授業の中で活用するようにということで、今は取り組んでいるんです。

学図についても、そうなっている所は、評価できるのかなと思います。

委員：学校図書は、5年で千住明さん、作曲家の方のいじめの話が出ており、全然出てきてないということではないのですが、学年によって片寄りがある

ということなんでしょうね。

委員：いじめ問題の対応に関する内容ではあるんですけど、ストレートにいじめであると訴えるという、直接的なのは少なかったように思えますね。わかりやすいというか、子ども達が理解しやすい、そういう題材が多かったと思います。

会長：学校図書に関しては、よろしいでしょうか。

会長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。

委員：教育出版のこの会社は、割と学校現場を理解しているのかなと、私はそう思いました。というのは、どの教科書も35個の教材をいれているんですけど、ここは31から35を補充教材としているんです。兵庫県版の副読本を活用しなくてはいけない時間も当然ありますし、別の資料を使つての学びもあるというのが現実ですから。すべて35時間、この教科書に出ている教材全てを指導するっていうことは、なかなか現実的に難しいと思うので、配慮されているなと思いました。いろいろな内容項目があるんですけど、割と同じ項目を2つか3つ、また違う項目を3つぐらい同じようにと、割と連続性というのを意識しているなと思いました。

委員：児童の身近な生活の中で、道徳的価値について考えさせるものを取りあげているので、わかりやすい物が多かったですね。読みやすいといえますか。ただ内容は、オーソドックスでした。

会長：続いて、光村図書についていかがでしょうか。

会長：先ほど意見が出ましたが、他に意見はございませんか。

委員：いじめ防止対策推進法とか、AKB48の高橋みなみさんのいじめの話とかが載っていましたね。それから、世界人権宣言、外国人への差別・偏見をなくすということで、差別のない社会をめざすというのも6年で出てきました。

委員：ハンセン病もありましたね。

委員：5年生で出てきましたね。子どもの権利条約も載せていました。それから、子どもに是非読ませたいお話で、6年「ぼくの名前呼んで」、すごく感動な教材で、私は泣いてしまいましたけども。先生が教えてて、泣いてしまうんじゃないかなという話でした。先生が泣いたらダメなんですけど、やっぱりそういう感動を伝えるっていうのも大事な事かなと思いました。

委員：教材は、編集で誠実さを感じましたね。例えば、他社もあつたんですけど、「私には夢がある」では、原作に近い、忠実に書かれていたような気がしました。

委員：ちょっと小さいんですね。B5です。今までも、道徳の副読本というのがあって、それも割と大きくて、ちょっと小さいかなというふうに。東書は写

真とか絵とかもくっきりしたものを使って、本当に対照的な教科書だなと思いました。

委員：今はやりのヨシタケ シンスケが書いていましたね。何ページか。

会長：続いて、日本文教についていかがでしょうか。

委員：5年のいじめの問題を扱っている教材で、傍観者についてのページを割いているんです。これは、よかったと思います。直接いじめるとかではなくて、それを見てる傍観者についてどう思うかというのを書いていたので、よい教材だなと思いました。

委員：6年でも同じようにして、いじめ問題を2ページにわたって書いていて、いじめと法律ということもしっかり書いていまして、“いじめられる人に問題があるの？”っていう問いかけがあるんですよ。子ども達が教室の中でよく言うんですけどね、「誰それちゃんがそんなん言うたからや。」というように、先生がはっきり言わないと、何か理由があつたらいじめてもいいのかとなってしまいますのでね。だから、これは大事な視点だと思いました。それと、自分を守る力ということも書いてありました。それも、大事なことだなと思います。守られるんじゃないかと、自分を守るってことも、これから大事になっていくんじゃないかなと思いました。

委員：子どもの権利条約、ユニセフ、ながらスマホの危険についてのページも割いてありましたし、何か新しいなっているのを感じました。

委員：他、ご意見ございませんか。

会長：続いて、光文書院についていかがでしょうか。

委員：いじめについて、取りあげられているんですけど、全体的に弱いなという印象でした。学年によっては、少ないところがあつて、ばらつきがあるかなと感じました。

委員：光文書院は作業所の写真とか、5年生で働く幸せっていう所で、チョーク工場の本岡さんっていう方が出てくるんですが、障害者問題を正面から取りあげています。チョーク工場働く人の8割が障害のある方で、間違ってもかまわない、間違いの中から、障害者の方が学んで、工場を運営していくんだと。新聞とかテレビにも取りあげられたところなんですけど。それを教材に、いち早く取りあげていましたね。子どもに読ませたい話だなと思いました。いじめについては、あまり記述がなかったかなと思います。

委員：光文書院についてよろしいでしょうか。

会長：続いて、学研教育みらいについていかがでしょうか。

委員：5年で、いじめをなくすためにというところで、宮本亜門さんと増田明美さんのメッセージが書いてあって、ストレートに読者に学習者に訴えかけられているというのが印象的でしたね。

- 委員：6年で、インターネットの使い方を取りあげていました。
- 委員：ユニバーサルデザインマークのページがあって、それと一緒に、日本の人口動向とか、育休取得率の女子のグラフも、書いてありました。結構、新しい取組が多いなと思いました。
- 委員：5年と同じように、様々な人々との関わりの中で、生かされる命というような单元も取りあげていました。
- 委員：学研教育みらいについて、他にご意見ございませんか。
- 会長：最後に、廣済堂あかつきについていかがでしょうか。
- 委員：これは、別冊もあるので大変重たいなと思いましたが、中身については、かなり充実していたように思いました。例えば、「三六五×十四回分のありがとう」とか、印象に残りました。別冊が本冊の間に収まって、いつも振り返りができるということも思いました。障害者差別も取り扱っていたかなと思いました。
- 委員：読み物の後に、簡単な問が2つほど書いてあるんですけど、書いてない教科書もあったんですが、あかつきについては書いてあって、それが割と、子ども達からいろいろな意見が出やすそうな、そういう問題になっていたように思います。だから、教師がちょっと使いやすいかなと思いました。
- 委員：このあかつきだけが、題材の後ろに、この資料で何を教えるのかということをはっきりと目標として、文で書かれていました。教師も子どもも、ここではこういうことを学んだなということを示しているのはすごいなと、他の会社ではなかったですね。今、おっしゃたように、子ども達が考える点が、2つから3つぐらいありました。そういうものが授業の中で活かせるなというふうに思いましたし、評価ということも大事なことで、活用できると思います。別冊があるので、これを教師が絶えず見て、あるいは預かりながら子どもの新しい気付き、深まりというのを確認できるなと感じました。
- 委員：ここにも、先ほど言った、「ぼくの名前よんで」っていう、子ども達に読ませたいお話が、5年で出てきていました。それと、2年に、「ふわふわことばとちくちくことば」というのがあり、私はこれが大好きで、学校風土として、こういうのを根付かせていきたいなと、常に思っていたので、こういう教材はよいなと思いました。それと、「大すきなかぞく」、「けいじばんのらくがき」などの教材もおもしろいと思いました。
- 会長：廣済堂あかつきについて、他にご意見はございませんか。
- 会長：道徳全般についてのご意見ございませんか。
推薦としては、いじめの観点からは光村図書ということで、他の観点からは、廣済堂あかつきということでよろしいでしょうか。

会 長：他に推薦の意思はございませんか。

会 長：ありがとうございました。他に全体を通して、ご意見ございませんか

(2) 加古川採択地区選定委員会報告書の作成について

(事務局から説明)

会 長：先ほどの説明に対して、何か、ご意見はございませんか。

会 長：それでは、事務局で、報告書の作成をよろしくお願いいたします。ご協議
ありがとうございました。以上で協議事項終了となります。

4 連絡事項

議事録及び資料の公表について

5 閉会